



流体力学を味方に付けた
超高速型アップカウル

「Ninja H2R」では超高速走行でも前輪が浮き上がらないよう、航空宇宙カンパニーの翼設計技術で空力デバイスを設計。カウル全体の形状はもちろん、大きなカーボン製ウイングをアッパーとサイドに付けることで、強力なダウンフォースを発生させて高速走行時のリフトを低減させている。またナックル部分にウインドプロテクションを付けることで、超高速域の空気抵抗からグリップや指の動きをガードしている。

川崎重工の
流体ノウハウを
フル活用した
空力ボディ



見た目にも
こだわるのが
Kawasaki流。



新開発された星形ホイール
最先端の強度解析技術によって新開発された、星形5本スポークタイプのアルミキャストホイールをリヤに採用。

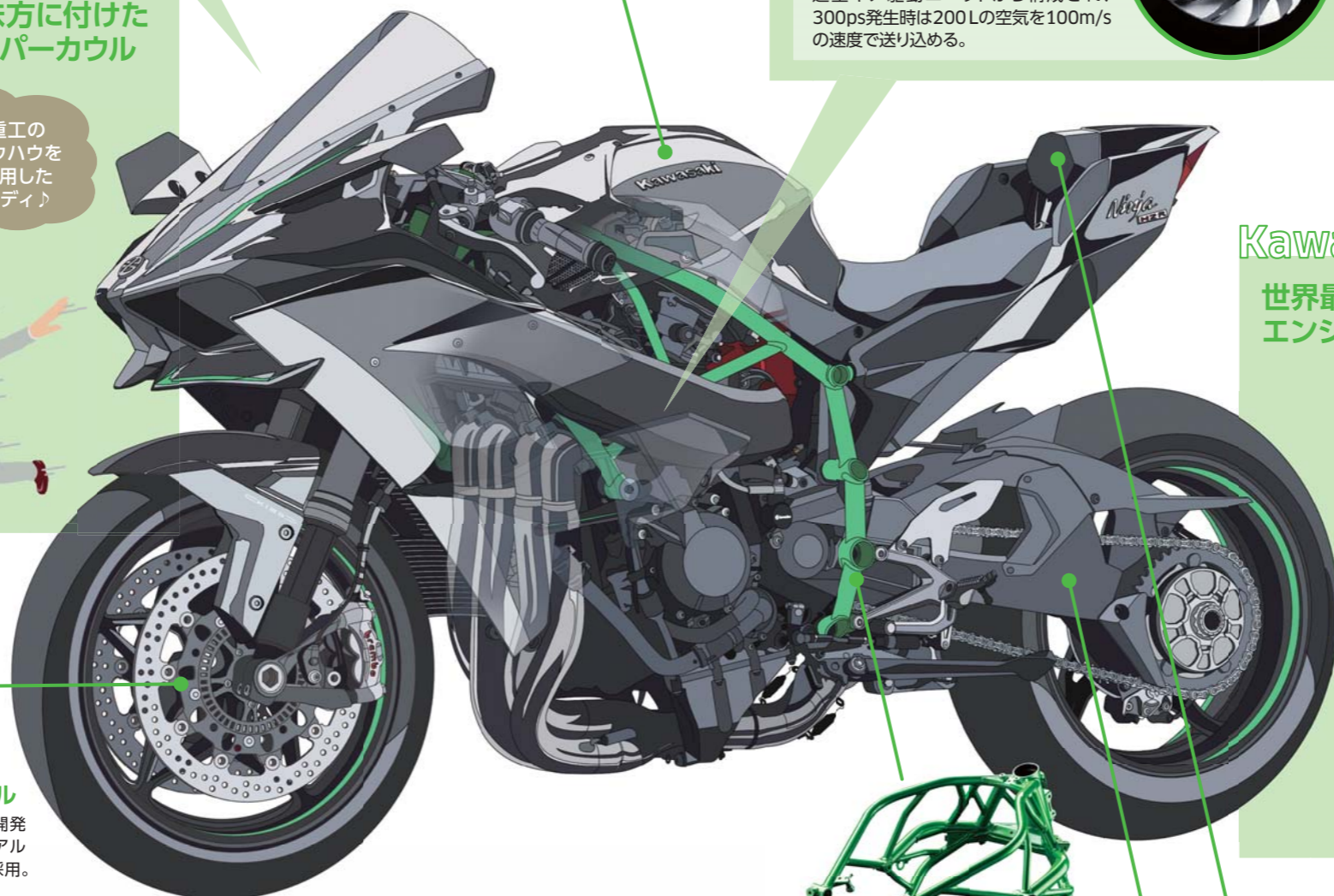
一般的な2輪はライン生産方式で組み立てられるが、「Ninja H2R」は1人、もしくは少人数で1台を最初から最後まで組み立てていく。まさに熟練の職人による手仕事だ。また、フレーム製造では最先端のロボットにより高品質で美しい溶接を実現。つまり、巧の技とテクノロジーの共演がここにある。

超高性能に欠かせない航空宇宙技術、効率的なエネルギー変換を可能にしたガスタービン技術など、川崎重工グループの総力がこの「Ninja H2R」に詰まっている。まさに夢の1台なのだ。



クラフトマンシップを象徴する銀鏡塗装

銀鏡塗装は主にカスタムペイントに用いられる手法で、時間や設備、熟練の塗装技術を要することから、一般的な量産市販車には用いられない。その中で「Ninja H2R」は業界初の銀鏡塗装車となり、機能美を重視する「Kawasaki」のクラフトマンシップを具現化している1台だ。



川崎重工の技術を結集させた
スーパーチャージドエンジン

「Ninja H2R」のために新設計・新開発されたのがスーパーチャージドエンジンだ。ガスタービンの技術をベースに、二輪のエンジン設計者が過給機の翼までゼロから作りあげた。過給機とエンジンを自社で一体設計し、998cc直列4気筒でZX-10Rと同等のコンパクトサイズながら、300psのパワーで異次元の加速パフォーマンスを実現している。

エンジン設計者がインペラまで設計したスーパーチャージャー

完全自社製のスーパーチャージャーは、エンジン設計者が設計した超精密削り出しインペラ、コンプレッションハウジング、遊星ギア駆動ユニットから構成され、300ps発生時は200Lの空気を100m/sの速度で送り込める。



過給機とエンジンを
一体設計した、
まったく新しい
「過給エンジン」です！



Kawasaki Synergy

世界最高のガスエンジン技術が、
エンジンのノッキングを抑止

出力向上のため、エンジンの燃焼室に送り込む混合気を圧縮しすぎると、ノッキングの壁にぶち当たる。しかし川崎重工が開発した世界最高の発電効率49.5%のガスエンジンに採用されているノッキング抑制技術が「Ninja H2R」のスーパーチャージドエンジンにも活かされ、ノッキングを防いでいる。



解説

川崎重工業株式会社
モーターサイクル&
エンジンカンパニー技術本部
第一設計部 第一課 基幹職

いち さとあき
市 聡頭



剛と柔が共存する
高張力鋼管
トリスフレーム

人が歩く程度の速さから超高速走行までの一貫した安定性を得るため、高張力鋼管トリスフレームを独自に開発。パイプ自体に衝撃吸収性があるため、軽量化を追求しつつも外乱をいなしにくれるという、剛と柔が共存した美しいフレームを実現した。

高速と加速を支える1人乗りシート

超高速性能のため1人乗り仕様のシート。前部は足付き性が良く、ニーグリップがしやすいスリムな形状で、後部は加速時のヒップホールドを確かなものとする幅広のデザインだ。



片持ち
スイングアームが
走りを変える

マシン全体の強度を確保し、複雑なアルミ部材によって構築される「片持ちスイングアーム」を採用。

Kawasakiパワーの
すべてをこの1台に！



川崎重工にしかつくりえない
10年先のスペックを実現する
驚異のモンスターマシン

今、自由にモーターサイクルをつくること。それが「Kawasaki」の大きなミッションを創造する。Ninja 30周年という記念すべき年に、公道を走るための法規制やレースに参戦するためのレギュレーション、さらにはモーターサイクルづくりの常識すら取り払い、あらゆる制約を受けずに開発されたのが「クロースドコース専用モデル Ninja H2R」だ。

スーパースポーツモデルの世界的な革命児「Ninja」、その加速でライバルたちの度肝を抜いた「Ninja H2R」の名が冠されたこのモンスターマシンは、最高出力300ps、最高速度は300km/hを優に超える。しかし「Fun to ride」という開発コンセプトが示しているように、強烈な加速力や超高速走行を安心して安定的に楽しめるのが、「Kawasaki」ならではのクラフトマンシップが細部に至るまで発揮されている。